

## 令和 2年度 行政評価事業別シート

	<b>実計対象</b> ■	<b>評価対象</b> ■	<b>新規</b> □	<b>完了事業</b> □	<b>ゼロ予算事業</b> □	<b>担当者</b>	荻原幹子
	<b>全体計画</b>			<b>経費区分</b>	<b>実施計画事業費</b>	<b>内線</b>	3354
<b>事務事業名</b>	4112 健康増進事業						
<b>所 属</b>	100600 健康福祉部・健康づくり課						
<b>施 策</b>	01010100 健康づくりの充実						
<b>予算科目</b>	<b>会計</b>	01 一般会計					
	<b>科目</b>	040103 衛生費・保健衛生費・健康づくり推進費					
	<b>事業</b>	020000 健康増進事業					
<b>事業目的</b>				<b>事業概要・効果</b>			
健康づくりの指標となる「第2次須坂市健康づくり計画」に基づき、保健指導、健康講座などを行い、生涯を通じて生活習慣病予防を主体的に実践する市民を増やす。				「生涯健康都市すざか」を目指し、市民1人ひとりが「自分の健康は、自分でつくり守る」ために健康増進に関わる事業を実施する。健康に対する意識を持ち実践する市民を増やすことで、生涯にわたり健康で暮らせる須坂市を目指す。			

### PLAN-DO

#### 年度実績及び予定

平成27年度 実績	平成28年度 実績
全地域公民館とおでかけ健康教室、健康まつりの開催、食育事業の実施 健康長寿発信都市「須坂JAPAN」創生プロジェクトの実施ー須坂エクササイズ出前講座、健康おすそわけツアー など	全地域公民館とおでかけ健康教室、健康まつりの開催、食育事業の実施 健康長寿発信都市「須坂JAPAN」創生プロジェクトの実施ー須坂エクササイズ出前講座、健康おすそわけツアー など
平成29年度 実績	平成30年度 実績
健康まつりの開催、食育事業の実施 健康長寿発信都市「須坂JAPAN」創生プロジェクトの実施ー須坂エクササイズ出前講座、健康おすそわけツアー 健康スミージーの普及など	健康まつりの開催、食育事業の実施 健康長寿発信都市「須坂JAPAN」創生プロジェクトの実施ー須坂エクササイズ出前講座、健康おすそわけツアー、健康応援教室、健康スミージーの普及 など
平成31年度 実績	令和 2年度 予定
健康まつりの開催、食育事業の実施 健康長寿発信都市「須坂JAPAN」創生プロジェクトの実施ー須坂エクササイズ出前講座、健康おすそわけツアー、健康応援教室、健康メニューの普及、健康スミージーの普及 など	食育事業の実施 健康長寿発信都市「須坂JAPAN」創生プロジェクトの実施ー須坂エクササイズ出前講座、健康応援教室、健康メニューの普及、健康スミージーの普及 など

指標名	「体重計にのろう」実践の表彰						
算式	累計表彰者数					単位	人
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和 2年度		
目標値	目標			430	466	500	
	実績			396	415		
指標選定の理由	生活習慣病予防を主体的に継続的に実践している指標として設定						
最終年度目標の根拠	26年度の実績を基に算出（年間36人表彰）						
指標名							
算式						単位	人
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和 2年度		
目標値	目標						
	実績						
指標選定の理由							
最終年度目標の根拠							
指標名							
算式						単位	人
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和 2年度		
目標値	目標						
	実績						
指標選定の理由							
最終年度目標の根拠							

事業費

(単位：千円)

		平成31年度 決 算	令和 2年度 予 算
事業費		23,721	22,862
特定財源	国庫支出金	2,817	0
	都道府県支出金	594	0
	地方債	0	0
	その他	2,122	2,190
一般財源		18,188	20,672
人員数(人)	正規職員	3.3	2.7
	嘱託職員	1.8	2.4
	臨時職員	0.0	0.0
人員コスト	正規職員	23,974.5	19,615.5
	嘱託職員	5,092.2	6,789.6
	臨時職員	0.0	0.0
	計	29,066.7	26,405.1
市民一人当たりの経費		1.0	0.9
総額		52,787.7	49,267.1

(単位：千円)

平成31年度決算 事業費の内訳		
主な節	金額	内容
8節 報償費	722	健康教室講師謝礼722
11節 需用費	1,969	健康教室、食育事業事務用品1,327 健康カレンダー、ウォーキングマップ印刷製本費634
13節 委託費	87	尿中塩分測定検査74
15節 工事請負費	0	
19節 負担金補助及び交付金	6,125	健康まつり実行委員会負担金485 研修会負担金6、信州須坂健康スムージー推進協議会負担金5,634
その他	14,818	嘱託職員報酬 5,313 共済費 1,057 臨時職員賃金 225 旅費144 役務費461 備品購入費454

(単位：千円)

令和 2年度当初予算 事業費の内訳		
主な節	金額	内容
7節 報償費	746	健康教室講師謝礼231、創生プロジェクトセミナー等講師謝礼196、健康づくり講座謝礼30、食育事業講師謝礼260、食育関係29
10節 需用費	2,080	健康教室・食育事業事務用品1,182、健康講座チラシ・健康カレンダー・ウォーキングマップ印刷製本費880、食糧費3、燃料費15
12節 委託費	123	尿中塩分測定検査83
14節 工事請負費	0	
18節 負担金補助及び交付金	1,540	健康まつり実行委員会負担金600 信州須坂健康スミージー推進協議会負担金900、研修会負担金40、
その他	18,373	会計年度任用職員報酬7,697 共済費1,621 会計年度任用職員給料5,980 旅費505 役務費483 使用料230

CHECK

個別評価		
項目	評価観点	評価内容
必要性	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民の生命・財産を守るため市が実施することが必要不可欠な事業であるか</li> <li>行政内部の管理運営上必要な事業であるか</li> <li>市が主体となり実施すべき事業か</li> <li>法的な根拠や公的関与の妥当性はあるか</li> <li>目的は結果（施策の目指す理想）に結びついているか</li> </ul>	高い
評価コメント	第2次健康づくり計画、第3期須坂市食育推進基本計画に基づき、生涯を通じて生活習慣病予防を主体的に取り組めるこどもの頃からの健康づくりを実施している。市民1人ひとりが「自分の健康は自分でつくり守る」ため健康同心事業は必要な事業である。総合戦略に示された須坂JAPAN創生プロジェクトは健康を核とした本市独自の政策であるため必要性が高い。	
有効性	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業の成果は上がっているか</li> <li>目標に対する達成度は十分か</li> <li>市民生活上の課題解決に貢献しているか</li> <li>行政内部の管理上の課題解決に貢献しているか</li> <li>事業の目的が達成できるような事業内容になっているか</li> </ul>	有効
評価コメント	子どもの頃からの健康習慣は大切であり、食育、歯の健康、運動等小中学校と連携し効果的に実施し健康を維持していくための習慣作りに寄与している。総合戦略における須坂JAPAN創生プロジェクトの取組みについては、健康スミージーの普及など目標を達成している。	
効率性	<ul style="list-style-type: none"> <li>成果を落とさずにコストを削減する方法はあるか</li> <li>効率性向上に努めているか</li> <li>使用料などの受益者負担や補助対象事業の範囲など、財源確保の余地はないか</li> </ul>	やや向上
評価コメント	食育等のボランティアの育成、支援を行い、地域の力を生かしながら事業を推進している。ウォーキングによる健康づくりの推進については、地域発元気づくり支援金を活用するなど財源確保に努めている。	

振り返り（決算年度の取組み課題）

子どもの頃からの生活習慣病予防への取組みや、歩行姿勢測定機器を購入(元気づくり支援金を活用)し、ウォーキング教室等で活用してもらい運動習慣のきっかけづくりができた。また、信州須坂健康スミージー推進協議会で、塩分不使用のスミージードレッシングを企画、開発し販売をすることができた。須坂市が持つ健康課題、高血圧の予防のため減塩に役立っていく。年明けより、新型コロナウイルスの関係で従来の保健事業の実施が困難になってきており実施方法の検討が必要。

**ACTION**

**1次評価**

**2次評価**

次年度以降の方向性	総合計画に沿って継続	次年度以降の方向性	簡易な改善（拡大）
総合評価コメント		2次評価コメント	
<p>食塩不使用のスムージードレッシングの開発販売により、高血圧予防などの健康増進を図ることができる。生活習慣病予防、運動習慣のきっかけづくりを継続して行う。</p>		<p>糖尿病疾患や高血圧症は生活習慣を起因とすることが多く、食生活の改善、運動の習慣づけなどの取組みが必要となる。特に糖尿病性疾患への取組みは、“生涯健康”を目指す立場から、さらなる取組拡大の必要性が指摘されている</p>	

**外部評価**

次年度以降の方向性	
外部評価コメント	